

「第18回 統計的安全評価手法標準分科会」議事録

日 時：2017年9月7日(木) 13:30～17:00

場 所：三菱重工本社3階 306会議室

出席者（敬称略）

出席委員：田中主査，工藤副主査，佐々木幹事，末廣幹事，滝井幹事，西浦幹事，本谷幹事，
三輪，堂田，竹田，山名，尾崎

専門部会：鈴木専門部会幹事

欠席委員：なし

常時参加者：金子(順)，早川，大島，山田，福田，片山，笹川，金子(浩)

オブザーバ：なし

配付資料：

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| P9SC18-1 | 人事について |
| P9SC18-2 | 第17回統計的安全評価手法標準分科会議事録（案） |
| P9SC18-3 | 誤記チェック確認結果 |
| P9SC18-4 | 統計的安全評価の実施基準：2008の詳細工程表 |
| P9SC18-5 | 統計的安全評価の実施基準：2008の課題整理表 |
| P9SC18-6 | 整理番号5-xの修正対応及び状況整理 |
| P9SC18-7 | 統計的安全評価手法標準改定案 |
| P9SC18-8 | 統計的安全評価手法分科会の進め方について（案） |
| P9SC18-9 | PWRにおける適用事例（附属書C）の改定方針及び状況について |
| P9SC18-10 | BWRにおける適用事例（附属書C）の改定方針及び状況について |

参考資料：

- 参考-1 出席者名簿
- 参考-2 文献調査票
- 参考-3 倫理教育用資料

議事

1. 出席者／資料確認

出席者を確認し，分科会会合の成立を確認した。また，配布資料を確認した。

2. 人事について（P9SC18-1）

当分科会の人事及び会合におけるオブザーバ参加はなかった。

3. 倫理教育

末廣幹事から第41回システム安全専門部会における倫理講習の資料を用いて倫理教育が行われた。参加者でディスカッションを行い、倫理意識を高めることができた。受講者名及び議論の内容をまとめて専門部会へ報告することとなった。

4. 前回議事録の確認 (P9SC18-2)

前回議事録(案)の内容について確認した。内容に対するコメントは出されず議事録として承認された。

5. 誤記チェックの確認結果について (P8SC18-3)

現行標準の誤記チェックに関するメール審議の結果について本谷幹事から報告があった。現行標準に対して正誤表の作成/発行等の早急な対応は不要であることが確認された。

6. システム安全専門部会対応状況について

末廣幹事より第41回システム安全専門部会での当分科会に関連するトピックとして次の報告があった。

- ・ 用語辞典WGについては、各分科会からの回答案の集約結果が専門部会に報告したことが紹介された。
- ・ 標準策定5か年計画について近日中に作成の依頼がある。専門部会幹事からは、重要なマイルストーンなどを踏まえて今後のスケジュールをたててほしい旨、コメントがあった。

7. 文献調査の状況について

調査状況について出席者から報告及び説明がなされ、内容について協議した。各調査結果に対するコメントを参考にして引続き調査を進めることとなった。専門部会幹事から略語が多いので略語集の充実を図るのがよいとのコメントがあり、拝承した。また関連して、用語及び定義については、この標準だけで必要な用語の定義が読者に分かるように作成する方針である旨説明がなされた。

8. 標準改定原案の状況について (P9SC18-6,7)

末廣幹事から課題整理表の整理番号5の修正作業について報告があり、同箇所の修正は一部を除いて概ね終了した。今回配布された標準改定原案は前回の会合からの変更箇所を示したものであり、各会合の段階で最新の改定履歴が分かるように進めていく方針である旨、副主査から説明があった。

9. 今後の進め方及び標準改定作業の進め方について (P9SC18-4,5,8)

本谷幹事から最新知見に係る文献調査の計画及び標準改定作業（文章作成など）の工程表について説明があった。最新知見が豊富なため当初の想定よりも調査に時間を要することが分かったこと及び標準の改訂文案の作成に時間を要する可能性が見込まれるとの意見があった。また、最新知見の調査及び整理を充実させること及びその過程で若手への技術伝承を着実に進める観点から、専門部会への中間報告を当初の計画から3か月繰り下げることにしたい旨、提案が出された。さらに、解析事例についても中間報告ではある程度の結果を記載する方がよいとのコメントもあり、可否を含め検討することとなった。

改定及び報告に関するスケジュールの再調整について委員を含む出席者間で合意されたが、改訂後の計画通りに進める必要があることから、出席者間で合意した詳細なスケジュール計画を作成することとなった。本件については、幹事団から課題ごとの担当者へ確認のメールを送って回答を集約して詳細工程表を改訂し、次回会合で確認することとなった。

さらに、標準の改定に当たって、技術継承及び改定内容の品質確保の観点から、プラントメーカー及び燃料メーカーの若手技術者3名、並びに副主査で構成する改定作業チームを編成して実作業を進める案が幹事団より提案され、合意された。

専門部会幹事から、11月末の専門部会では進捗報告をするようコメントがあり、対応することとした。

10. PWR 及び BWR 適用例（附属書 C）の改定方針及び状況について (P9SC18-9,10)

PWR 適用例は片山常時参加者から、BWR 適用例は滝井幹事から、それぞれ、改定方針、対象とする事象、検討状況などについて報告があった。また、進捗状況について分科会に定期的に報告することとなった。

11. その他

次回の分科会については10/17に開催することとし、詳細を幹事団から後日案内することとなった。

以上